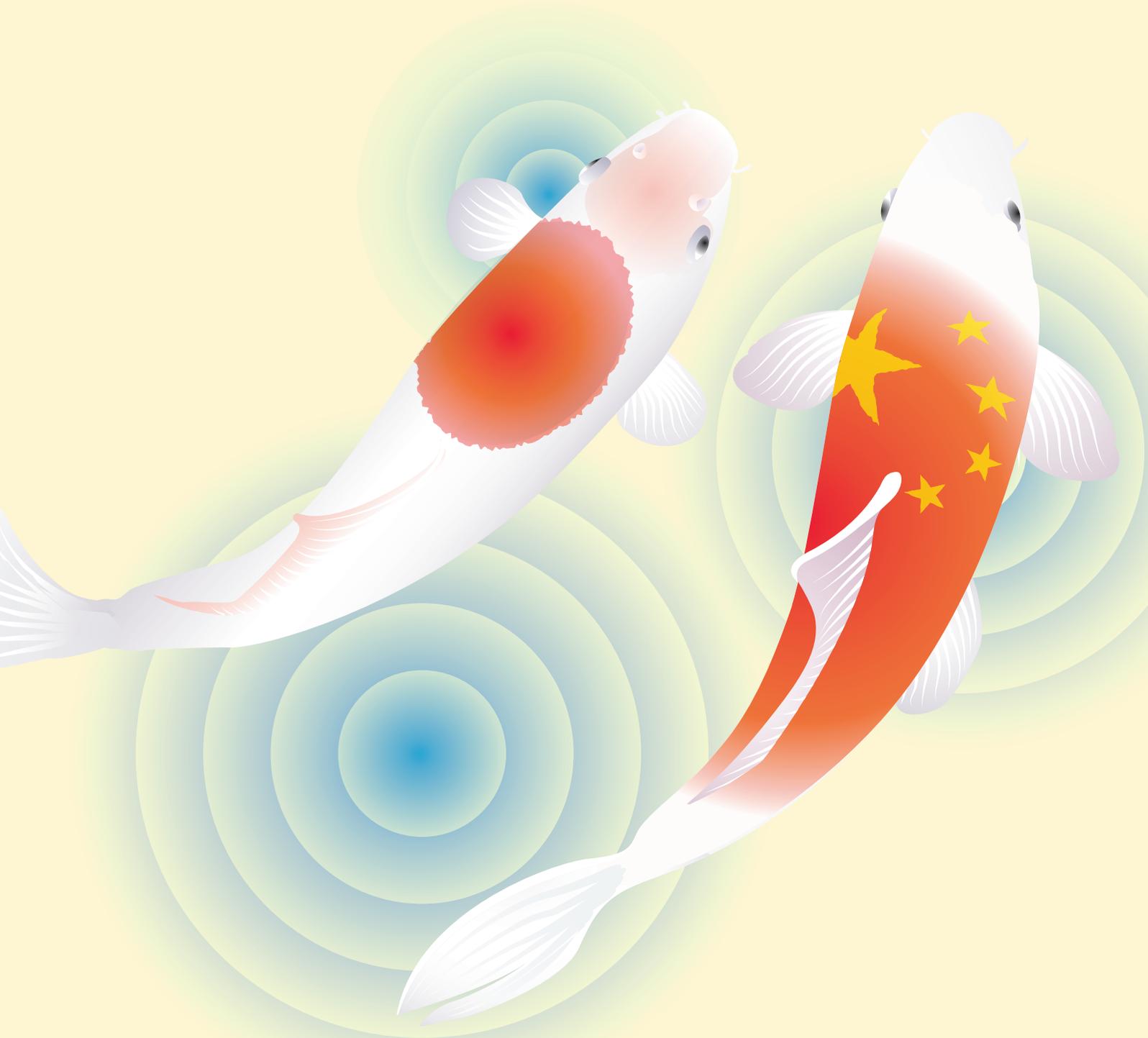


公益財団法人

# 日中医学協会

The Japan China Medical Association



# » 目次

## 1 ごあいさつ

---

## 2 日中医学協会概要

---

目 的

理 念

設立の経緯

日中医学協会ネットワーク

## 5 研究助成

---

共同研究等助成事業

日中笹川医学協カプロジェクトー日中笹川医学奨学金制度

## 9 医療協力

---

日中笹川医学協カプロジェクトー笹川医学奨学金進修生同学会事業

日本人専門家の派遣

医療視察団の招請

訪日研修への支援

日本医療の中国展開支援

## 12 学術会議

---

日中医学交流会議

日中医学大会

その他主催会議

## 14 機関誌『日中医学』

---

## 15 維持会員へのご入会並びに寄附のお願い

---

## 16 日中医学協会役員名簿

---

# 》ごあいさつ

日中医学協会は、1978年に日中友好協会内に日中間の医学・医療交流の専門窓口として設置された「医学学术交流小委員会」を源流としてスタートしました。1980年に任意団体「日中医学協会」を創立し、1985年の財団法人設立を経て、2013年に公益財団法人へ移行しました。

創立に当たって、黒川利雄会長は、「2000年の昔からわが国が中国より受けた恩恵は数えるにいとまがない程である。古詩の一節に『扶過断橋水 伴帰無月村』とあるが、日本と中国とは橋のない川でも相扶けて渡るべきであるし、月のない暗夜には手を取りあって帰るべきである。我々は医学の面において真に手をたずさえて行くべきだとの思いが本協会設立の主旨であることを強調したい」と述べ、懸田克躬副会長は、「日中医学協会が順調な成長を遂げて両国の医学医療の向上と交流の推進とに役立つものとなるよう育っていくことを期待したい」と述べています。

これらは、現在においても特に意図されて良いことと思います。

日中医学協会は、「日中笹川医学奨学金制度」「日中医学交流会議」「日本式医療の中国展開」等の事業を通じて中国国家衛生健康委員会（中国保健省）や中華医学会等と交流を深め、40年にも及ぶその交流は、確固たる信頼関係を築き上げ、日中間の医学・医療交流に必要不可欠な存在と、国内外から高い評価を頂いております。

日中医学協会は、これからも医学・医療を含むヘルスの領域で、「倫理、日中協力、産学・官民の幅広い関係者の参加、Win-Winの関係、政治的に中立」をポリシーに、両国民の生活の質の向上と共に信頼感の醸成に資する、両国の国益に適う事業を展開して参ります。

「日中笹川医学奨学金制度」等の現事業と共に、新しく展開する事業についても、広く斯界各位のご支援をお願い申し上げる次第であります。



Hideoki OGAWA

**小川 秀興**

公益財団法人  
日中医学協会  
会長



Yutaka ATOMI

**跡見 裕**

公益財団法人  
日中医学協会  
理事長

# » 日中医学協会概要

## 目 的

日中医学協会は、日本と中国の医療関連諸領域における交流事業を行い、日中両国及び日中両国を中心としたアジア地域の保健医療の普及及び向上に寄与することを目的として、(1) 研究助成及び学術的共同研究の実施、(2) 学術会議、(3) 医療協力事業及び支援活動、(4) 調査・情報収集、広報啓発活動、(5) 人材育成、(6) 招請、派遣、その他目的達成のために必要な事業を行っております。

中国は著しい経済成長下、健康中国2030等において医療衛生制度の一層の改革、体系化を推進しております。日中医学協会は、これら中国の政策と日本の成長戦略（健康・医療戦略）との連動を見すえて、日中両国に有するネットワークを活用し、法人・個人会員と中国の政策部門・医療機関・医療従事者とのコーディネートに係わるプラットフォームも強化して参ります。

## 理 念

わたくしたちは、以下の行動理念のもと、日中両国が協力して医療保健サービスの普及及び質向上に寄与するため、「学術の振興」、「医療協力」、「国際相互理解の促進」等の事業を通じて、健康で安心して暮らせる社会の建設に公益財団法人として積極的に貢献します。

### 日中医学協会は、

医は究極の倫理であるという認識に立ち、人々が繁栄を享受できる社会の形成を目指し、倫理観の発展を世界の人々に示します。

### 日中医学協会は、

日中両国が力を合わせ、世界の人々に適切な保健医療サービスを提供するために、期待される役割を積極的に果たします。

### 日中医学協会は、

日中両国の産学・官民の幅広い関係者の参加により、医療保健を通じて、国際相互理解の促進に貢献します。

### 日中医学協会は、

日中両国が知見と経験を共有し、相互に Win-Win の関係であることを事業規準とします。

### 日中医学協会は、

政治的に中立で、社会に信頼される事業運営を行います。

## 設立の経緯



財団法人日中医学協会設立披露会

1972年の日中国交正常化を契機に医学・医療関係者の相互訪問が盛んになり、これに対応するため、1978年、日中友好協会内に日中医学協会の前身である医学学術交流小委員会が設置され、中華医学会（日本医学会に相当）を中国側窓口として交流を行っておりました。

1980年、日中友好協会から独立し、任意団体「日中医学協会」として活動を開始しました。

医療の近代化を目指す中国の要請に応じて、日中間の共同研究支援や人材育成等の事業を幅広く行うた

め、1985年、医学・歯学・薬学・看護・その他医療関連団体、並びに経済団体連合会傘下の医療業界の協力を得て、全国性・総合性を備えた「財団法人日中医学協会」が設立されました。

2013年、公益法人制度改革に伴い、「公益財団法人日中医学協会」に移行しました。今の時代にふさわしく、より公益性の高い日中医学交流事業を、多様な形で展開しています。

| 開催年   | 設立記念行事         | シンポジウムテーマ   |
|-------|----------------|---|
| 2015年 | 設立30周年記念シンポジウム | 日本医療の国際展開と中国における日中医学協会の役割<br>(馬曉偉中国国家衛生・計画生育委員会副主任臨席) |
| 2013年 | 公益財団法人認定記念祝賀会  |   |
| 2005年 | 設立20周年記念シンポジウム | 中国における感染症の予防とコントロール<br>(陳嘯宏衛生部副部長講演)                  |
| 2000年 | 設立15周年記念シンポジウム | 中西医结合の現状と展望 (彭玉衛生部副部長講演)                              |
| 1995年 | 設立10周年記念シンポジウム | 日中医学交流の過去・現在・未来 (陳敏章衛生部副部長講演)                         |
| 1985年 | 財団法人日中医学協会設立   |   |
| 1980年 | 日中医学協会創立       |   |

### 歴代役員（役職：当時）

#### 会 長

|      |           |               |
|------|-----------|---------------|
| 小川秀興 | 2023～     | 学校法人順天堂理事長    |
| 高久史麿 | 2015～2022 | 地域医療振興協会会長    |
| 森岡恭彦 | 2012～2015 | 日赤医療センター名誉院長  |
| 森 亘  | 2006～2012 | 日本医学会会長       |
| 杉村 隆 | 2003～2005 | 国立がんセンター名誉総長  |
| 岡本道雄 | 1996～2002 | 京都大学名誉教授      |
| 懸田克躬 | 1992～1995 | 順天堂大学顧問       |
| 石館守三 | 1988～1991 | 笹川記念保健協力財団理事長 |
| 黒川利雄 | 1985～1987 | 日本学士院院長       |

#### 理 事 長

|      |           |                |
|------|-----------|----------------|
| 跡見 裕 | 2023～     | 学校法人跡見学園理事長    |
| 小川秀興 | 2015～2023 | 学校法人順天堂理事長     |
| 安達 勇 | 2008～2015 | 静岡県立静岡がんセンター参与 |
| 森岡恭彦 | 2002～2007 | 日赤医療センター名誉院長   |
| 中島 章 | 1995～2001 | 順天堂大学名誉教授      |
| 羽田春兔 | 1992～1995 | 日本医師会顧問        |
| 石館守三 | 1985～1991 | 笹川記念保健協力財団理事長  |

# » 日中医学協会概要

## 日中医学協会ネットワーク

# 日中両国の架け橋に—— 広げる、深める、つなげる。

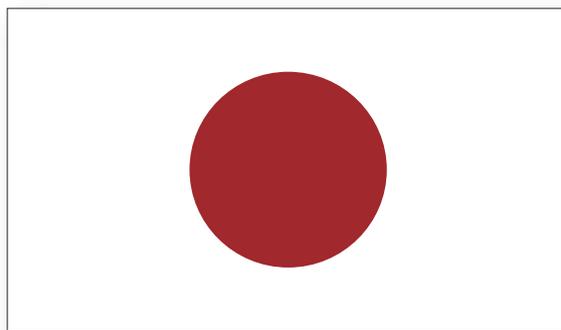
日中両国の医学・保健医療の普及及び向上に寄与するため、中国の政策と日本の成長戦略との連動を見すえて、当協会が日中両国に有するネットワークを活用し、法人・個人会員と中国の政策部門・医療機関・医療従事者との連絡調整と橋渡しに係わる事業を一層充実させて参ります。

## CHINA



- 国家卫生健康委員会
- 教育部
- 外交部
- 各省衛生庁
- 中国駐日本国大使館（中国大使館）
- 中華医学会
- 中国医師会
- 中華口腔医学会
- 中国薬学会
- 中華護理学会
- 中華予防医学会
- 医療関連企業・団体
- 医療機関
- 研究機関
- 日中医学協会研究助成金受給者
- 日中笹川医学奨学金制度研究者 2,300 名

## JAPAN



- 内閣官房
- 内閣府
- 法務省
- 外務省
- 文部科学省
- 厚生労働省
- 経済産業省
- 在中国日本国大使館（日本大使館）
- 日本医師会 / 日本医学会
- 日本歯科医師会 / 日本歯科医学会
- 日本薬剤師会 / 日本薬学会
- 日本看護協会 / 日本看護学会
- 日本女医会
- 日本財団
- 医療関連企業・団体
- 日中友好団体
- 医療機関
- 研究機関
- 日中医学協会研究助成金受給者

# 研究助成

## 共同研究等助成事業

日中の学術的共同研究やその他の研究交流を通じて、相互の理解を深めるとともに、医療関連諸領域の学術と技術の提携と協力を推進し、両国保健医療の普及と向上に寄与することを目的として、1986年から実施しています。

助成項目は、これまで「調査・共同研究」、「中国人研究者・技術者招聘」、「日本人研究者派遣」、「在留中国人研究者」、「学会助成」、「トラベルグラント」でしたが、2013年度からは対象項目を「調査・共同研究」と「若手在留中国人研究者」にしぼり、行っています。

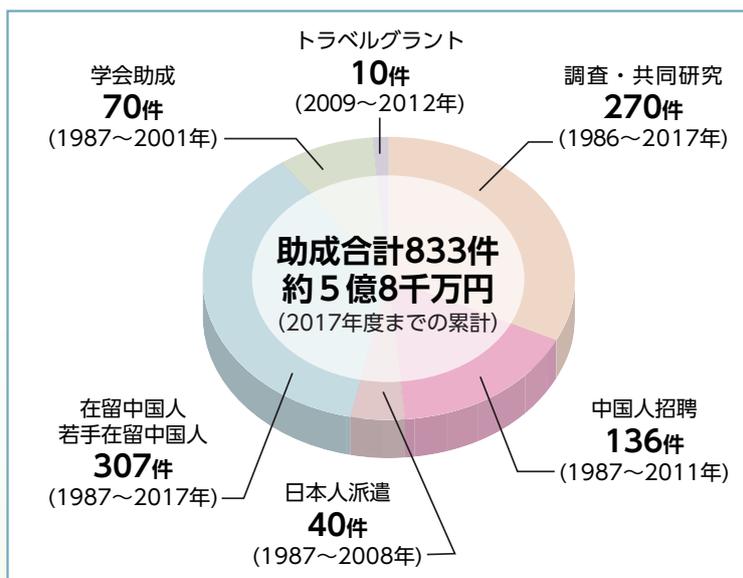
### 調査・共同研究助成

日本の大学、研究所等に所属し、中国と共同研究を行っている研究者に対して行う助成で、2013年度からは、助成対象領域を「基礎医学・薬学」と「臨床医学・社会医学・歯学・看護」に分け、隔年毎に募集を行っています。助成期間は、4月から翌年3月までの1年間です。

### 若手日本在留中国人研究者助成

日本の大学、研究所等に在籍して研究指導を受けている若手中国人研究者に対して行う助成で、2013年度からは、助成対象領域を「基礎医学・薬学」と「臨床医学・社会医学・歯学・看護」に分け、隔年毎に募集を行っています。助成期間は、4月から翌年3月までの1年間です。

### 助成額累計



# » 研究助成

## 日中笹川医学協力プロジェクト

### 日中笹川医学奨学金制度

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

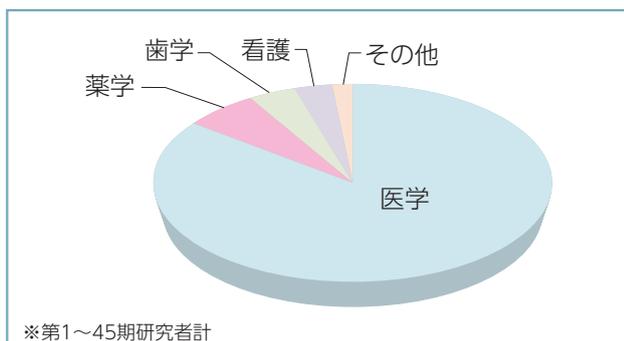
日本財団の助成を受け、1986年から中国国家衛生健康委員会（旧称：中国衛生部、中国国家衛生・計画生育委員会）とともに実施している奨学金制度で、中国の医学・医療分野の指導者となりうる人材の育成と、日中両国の医学・医療分野における協力関係の一層の促進を目的に、中国の研究者を日本に招聘しています。

これまでに招聘した研究者は延べ2,396名、受け入れ機関（大学・病院・研究所等）は242機関、指導教官・共同研究者は1,756名にのびります。

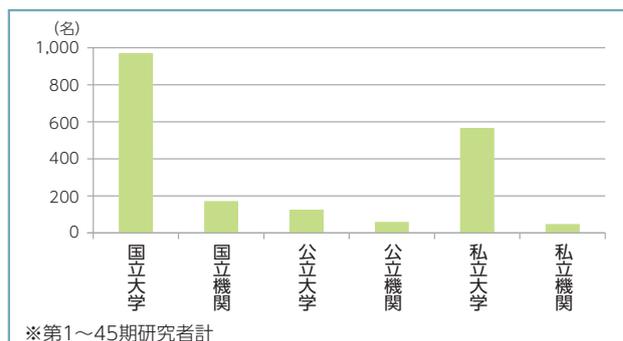
帰国した研究者は、中国科学院の院士（日本の学士院会員に相当）や医学医療系大学の学長・副学長、先端医療提供病院（三級病院）の病院長、主任教授等の要職に就き、中国医学界における中心的な役割を担っています。

また、1991年に研究者の同窓会組織「笹川医学奨学金進修生同学会」（略称：笹川同学会）が発足し、中国全土に6支部と日本支部、北米支部を設け、日本で学び得た知識や技術を中国国内に還元する活動を積極的に行っています。（p.9「日中笹川医学協力プロジェクトー笹川医学奨学金進修生同学会事業」参照）

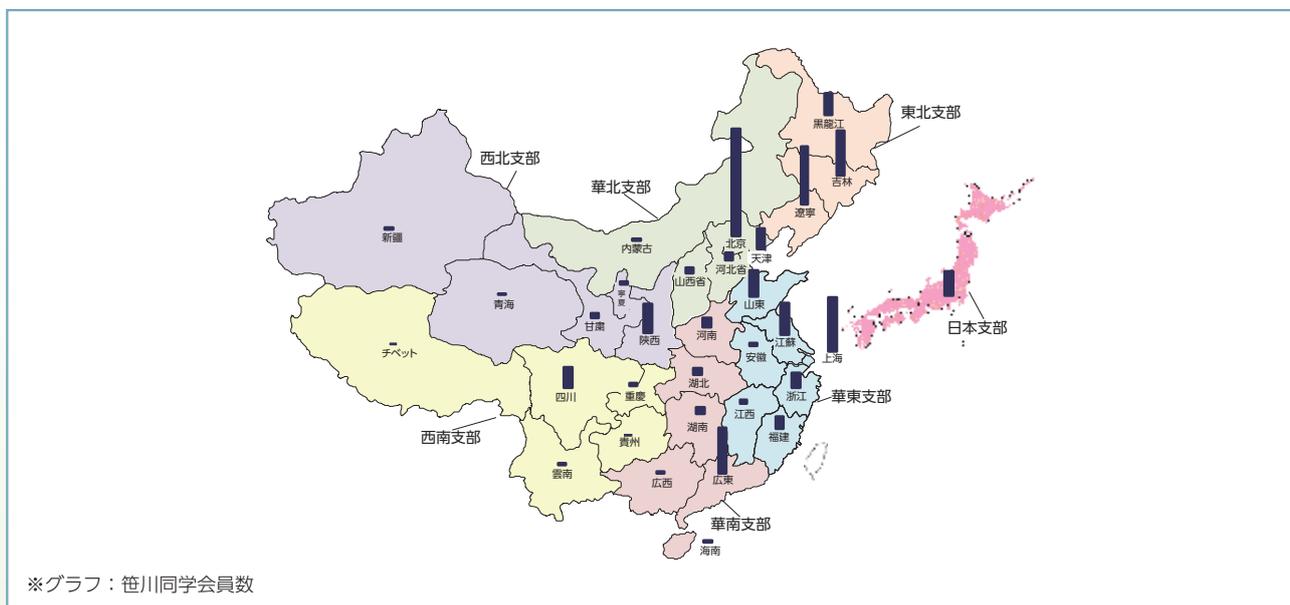
#### 研究者専門分野



#### 研究者受け入れ機関（日本）



#### 笹川同学会支部と同学会員分布図



## 年表（役職：当時）

| 年     | 沿 革   |
|-------|---|
| 1986年 | <p>『笹川医学奨学金制度』協定書調印－10年間で1,000名の研究者を招請</p> <p>調印者：石館守三 日中医学協会理事長（写真：左）<br/>                 笹川良一 笹川記念保健協力財団会長（写真：中央）<br/>                 陳敏章 衛生部副部長（写真：右）</p>   |
| 1987年 | <p>笹川医学奨学金制度開始－第1期生来日<br/>                 訪日前に北京・人民大会堂で顧英奇衛生部副部長主催の結団式を開催、王震中国国家副主席、笹川良一、笹川記念保健協力財団会長、笹川陽平同財団理事長、石館守三日中医学協会理事長が出席<br/>                 来日時に歓迎式典を開催、章曙中国駐日本国特命全権大使、斉藤昇厚生大臣、中曾根康弘総理、岡崎嘉平太氏等、400名が列席</p>  |
| 1991年 | <p>『笹川医学奨学金制度5周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催、朱鎔基副総理が列席<br/>                 帰国した研究者が同窓会組織「笹川医学奨学金進修生同学会」（略称：笹川同学会）を結成し、中国全域の医療水準向上及び日中間の医学・医療交流の促進・深化を目的に、辺境地域の医療従事者の育成や被災地等におけるボランティア診療、日本人専門家を招き学術交流会・学術セミナーの開催等の活動を行う</p>   |
| 1992年 | <p>帰国した研究者の中から特に優秀な研究者10名を再招請する特別研究者招請事業開始</p>  |
| 1996年 | <p>『日中笹川医学研究者制度（第二次制度）』協定書調印－10年間で1,000名の研究者を招請</p> <p>調印者：岡本道雄 日中医学協会会長（写真：左）<br/>                 日野原重明 笹川記念保健協力財団理事長（写真：中央）<br/>                 殷大奎 中国衛生部副部長（写真：右）</p>   |
| 1997年 | <p>『笹川医学奨学金制度10周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催</p>  |
| 1998年 | <p>第20期生帰国、受け入れ者数1,000名を達成<br/>                 日中笹川医学研究者制度（第二次制度）開始－第21期生来日<br/>                 特別研究者招請事業で来日する研究者を20名に増員</p>  |
| 2007年 | <p>『日中笹川医学奨学金制度20周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催<br/>                 陳竺衛生部長、森喜朗元内閣総理大臣、尾身茂 WHO 西太平洋事務局長、研究者、指導教官、関連機関役員等、1,000余名が列席</p> <p>『日中笹川医学奨学金制度（第三次制度）』協定書に調印－5年間で150名の研究者を招請</p> <p>調印者：笹川陽平 日本財団会長（写真：左）<br/>                 蒋作君 衛生部副部長（写真：右）</p>  |
| 2008年 | <p>日中笹川医学奨学金制度（第三次制度）開始－第31期生来日、特別研究者招請事業終了</p>   |

# » 研究助成

| 年     | 沿 革  |  |
|-------|--|--|
| 2013年 | 『日中笹川医学奨学金制度（第四次制度）』協定書に調印－5年間で150名の研究者を招請<br><br>調印者：尾形武寿 日本財団理事長（写真：左）<br>馬曉偉 中国国家衛生・計画生育委員会副主任（写真：右）  |   |
| 2014年 | 日中笹川医学奨学金制度（第四次制度）開始－第36期生来日   |  |
| 2016年 | 『日中笹川医学奨学金制度30周年記念式典』を日本で開催<br>馬曉偉国家衛生・計画生育委員会副主任、古屋範子厚生労働副大臣、程永華中国駐日本国特命全権大使、指導教官、関連機関役員等、500名余が列席  |    |
| 2017年 | 『日中笹川医学奨学金制度（第五次制度）』協定書に調印<br><br>調印者：尾形武寿 日本財団理事長（写真：左）<br>崔麗 中国国家衛生・計画生育委員会副主任（写真：中央）<br>小川秀興 日中医学協会理事長（写真：右）  |   |
| 2018年 | 日中笹川医学奨学金制度（第五次制度）開始－第40期生来日   |  |
| 2023年 | 『日中笹川医学奨学金制度35周年記念式典』を北京・人民大会堂で開催<br>曹雪涛中国国家衛生健康委員会副主任、森喜朗元内閣総理大臣、垂秀夫在中国日本国特命全権大使、指導教官、共同研究者、関連機関役員等、1,000余名が列席<br><br>『日中笹川医学奨学金制度（第六次制度）』協定書に調印<br><br>調印者：笹川陽平 日本財団会長（写真：右）<br>曹雪涛 中国国家衛生健康委員会副主任（写真：中央）<br>小川秀興 日中医学協会会長（写真：左） | <br> |
| 2024年 | 日中笹川医学奨学金制度（第六次制度）開始－第45期生来日   |  |

# 》 医療協力

## 日中笹川医学協力プロジェクト

### 笹川医学奨学金進修生同学会事業

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日中笹川医学奨学金制度研究者の同窓会組織である「笹川医学奨学金進修生同学会」（略称：笹川同学会、p.6参照）が主体となり、日本財団と中国国家衛生健康委員会（旧称：中国衛生部、中国国家衛生・計画生育委員会）の協力を得て、中国全土の医療サービス体制整備に寄与するために、当協会と共同で実施しているプロジェクトです。医療格差の解消と大病院への患者集中を緩和することを目標として、中国の医療政策に反映できる笹川同学会事業モデルの構築を進めています。

#### 短期 / 中・長期診療技術研修の実施

笹川同学会員が所属する三級病院（先端医療提供病院）において、二級病院（県級病院）の医師や看護師に対して、その地域で罹患率の高い疾病治療の専門的な技術を教授し、スキルアップを支援しています。



#### 日中ハイエンド医学フォーラムの開催

中国の医療衛生政策の重点課題（がん治療、糖尿病、高齢者医療・介護等）をテーマに開催し、日中両国の専門家の講演及び意見交換を通じて、医療課題解決に向けた新たなアプローチを探究しています。



#### 地域医療支援活動の実施

中西部等、医療格差がある地域で定点となる医療機関を定め、笹川同学会員が定期的に訪問してプライマリ・ケアを担う医師や看護師を育成することにより、地域医療の質的面的な向上拡大を目指しています。



#### 支部学術交流会の開催

毎年全国の各支部で、中国の医療における今日的課題をテーマに講演と意見交換を行い、会員相互の研鑽と情報の共有化を図ると共に、会員同士の親交を深めています。



# » 医療協力

## 日本人専門家の派遣



パネルディスカッション

日本の先端医療技術等の紹介や日中両国の専門家交流促進のため、毎年10名以上の医学・歯学・薬学・看護・介護等の専門家を中国に派遣し、学術シンポジウムや医療機関での講演、実地指導等を行っていただいております。

中でも中日友好病院には1993年から2002年まで外務省経済協力局民間援助支援室の国際開発協力関係民間公益団体補助金の支援を受け、60名以上の日本人専門家を派遣しました。2003年からは自主事業として、引き続き専門家の派遣を行っています。

また、中国の医療事情への理解を深めてもらうため、日本人専門家に三級病院（先端医療提供病院）や二級病院（県級病院）、一級病院（末端医療機関）の視察と当該病院の医療従事者との交流を行っていただいております。

## 医療視察団の招請



手術看護訪日団病院参観



日本の医療事情視察を目的に訪日する中国の医療関係者・団体に対して、招請状の発行や病院視察の手配、医学交流セミナーの開催等を行っています。

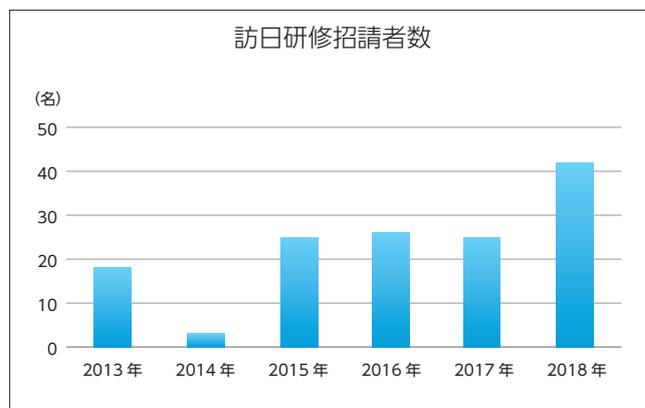
当協会のネットワークで視察の目的に最も適した病院とセミナー講師を選定し、充実した学術交流を実現しています。

病院の視察や日本人専門家との交流を通じて日本の先進医療や患者中心とする医療サービス等に対する理解を深めてもらうため、医学・歯学・薬学・看護等の専門領域の各科主任から病院長、地方衛生行政官に至るまで、幅広く受け入れています。

## 訪日研修への支援



日中消化器内視鏡臨床診断治療・病理合同研修プロジェクト



日本の高度な医療技術や医療サービスを短期間で習得することを目的として、奨学金や中国の所属機関の助成等を得て日本の病院で研修を行う中国の医療従事者のために、招請状の発行や研修先の手配、研修のアレンジ等を行っています。

また、中国の医療水準向上のため、中国政府機関と共同で日本での若手医師育成プロジェクトを立ち上げ、日本の先端医療技術習得の他、複数科間の連携や多職種連携についても学んでいただいております。

「日中消化器内視鏡診断治療・病理合同研修プロジェクト」では、中国の消化器内視鏡医と病理医がペアで来日し、消化器がんの早期発見・早期治療のための先進技術を習得すると共に、内視鏡医と病理医の密接な連携の重要性について理解を深め、これらの技術や知識を中国での実践に活かし、5年生存率の向上に寄与することを目的としています。既に中国全域の30以上の医療機関でこの日本式医療を実践し、さらに周辺地域への二次展開が進展しつつあります。

## 日本医療の中国展開支援



中国国内歯科技術研修（経済産業省受託事業）

当協会が有する中国の医療関係者との広範なネットワークを活用し、医療機器メーカーや大学等の研究機関、医療機関と共に、日本政府が行う医療の中国展開を支援しています。

本事業は、医療改革で大きく変わりつつある中国の医療サービス体制において、医療の質の平準化に貢献するとともに、「訪日研修への支援」と併せて日本の医療関連企業、医療機関が活動の場をより広げていく機会を提供するものです。

# 》 学術会議

## 日中医学交流会議

1987年より、日中両国の医療の今日的課題をテーマに、テーマとなる領域を代表する日中両国の専門家を招いて学術シンポジウム「日中医学交流会議」を開催しています。

| 開催年   | テーマ   |   |
|-------|---|---|
| 2019年 | がん治療の現況と近未来<br>基調講演：本庶 佑 京都大学特別教授、<br>2018年ノーベル生理学・医学賞受賞  |    |
| 2018年 | 生活習慣病：日中における現状と対策<br>……国家レベルとしての取り組み<br>基調講演：高 福 中国科学院院士、中華医学会副会長、<br>中国疾病予防コントロールセンター主任<br>※外務省日中国交正常化45周年認定行事<br>※外務省日中平和友好条約締結40周年認定行事 |   |
| 2016年 | 日中両国の医学医療領域における先進課題<br>※日中笹川医学奨学金制度30周年記念講演会（主管）<br>祝辞：馬曉偉 中国国家衛生・計画生育委員会副主任  |  |
| 2015年 | 日本医療の国際展開と中国における日中医学協会の役割<br>※日中医学協会財団設立30周年記念シンポジウム<br>祝辞：馬曉偉 中国国家衛生・計画生育委員会副主任  |  |
| 2012年 | 中国の医薬衛生改革の現状と展望<br>基調講演：陳嘯宏 中国衛生部副部長<br>※外務省日中国交正常化40周年認定行事<br>※外務省2012「日中国民交流友好年」認定行事  |  |

## 日中医学大会

中華医学会と日本医学会、日本歯科医学会が、日中国交正常化20周年、30周年を記念して、北京人民大会堂で「日中医学大会」を開催し、当協会が日本側事務局として大会の運営を担当しました。

本大会がきっかけとなり、それまで交流がなかった日本と中国の学会が交流を開始し、その交流は現在も続いています。



日中医学大会1992

| 開催年   | 大会名                            | 参加者・団体                                |   |
|-------|--------------------------------|---------------------------------------|---|
| 2002年 | 日中医学大会2002<br>※日中国交正常化30周年記念行事 | 日本側 1,000名<br>中国側 1,000名<br>参加学会 74学会 |   |
| 1992年 | 日中医学大会1992<br>※日中国交正常化20周年記念行事 | 日本側 1,000名<br>中国側 2,400名<br>参加学会 68学会 |  |

## その他主催・協力会議

日中両国の専門家間の学術交流の促進や、日本政府が行う医療の国際化に係わる事業を支援するため、日本と中国においてシンポジウム等を開催しています。

| 開催年   | 会議名   | 開催地 | 参加者                        |
|-------|---|-----|----------------------------|
| 2017年 | 第4回日中医学交流フォーラム－消化器・泌尿器領域  | 東京  | 3,000名<br>(中国国内モバイル閲覧者を含む) |
|       | 日中婦人科良性疾患交流フォーラム  | 北京  | 2,500名<br>(中国国内モバイル閲覧者を含む) |
| 2016年 | 日中医学学術交流大会2016東京 [日本財団助成事業]                                     | 東京  | 400名                       |
|       | 第3回日中医学交流フォーラム－消化器内科領域  | 蘇州  | 120名                       |
|       | 第3回日中医学交流フォーラム－婦人科領域  | 大阪  | 20名                        |
|       | 日中子宮内膜症交流サミット   | 北京  | 150名                       |
| 2015年 | 第2回日中医学交流フォーラム<br>(協力：中華医学会、天津武田薬品有限公司)                         | 東京  | 90名                        |
| 2014年 | 日本留学経験者交流会 [経済産業省受託事業]<br>※大阪大学国際医療シンポジウム「Go Global!!4@ 上海」合同開催 | 上海  | 200名 (企業65社)               |
| 2013年 | 日中医療機器審査交流会 [経済産業省受託事業]   | 北京  | 100名 (企業27社)               |
|       | 日中医療関係者セミナー・交流会 [経済産業省受託事業]                                     | 北京  | 130名 (企業47社)               |

# » 機関誌『日中医学』

1986年に創刊し、年4回発行しています。日本と中国の医学、歯学、薬学、看護、介護等の医学・医療分野における現状と課題を毎号の特集テーマとして、両国の専門家からの寄稿を日本語と中国語で掲載する他、在日中国人研究者へのインタビューや日本と中国の架け橋として活躍している医療関係者の紹介、当協会役員・会員からの寄稿文等を掲載し、当協会維持会員、日中両国の医学・医療関連機関・団体・政府機関・医療系大学の図書館等に配布して、両国の医学・医療交流の促進に貢献しています。



| 発行年度   | 刊数          | 特集記事                         |
|--------|-------------|------------------------------|
| 2023年度 | Vol.38 No.1 | 日中における在宅医療・看護の現状と課題          |
|        | Vol.38 No.2 | 日中における薬学領域からみた感染症治療の現状と展望    |
|        | Vol.38 No.3 | 日中における緩和医療の現状と課題             |
|        | Vol.38 No.4 | 日中における心不全治療の現状               |
| 2022年度 | Vol.37 No.1 | 日中における感染看護の現状と課題             |
|        | Vol.37 No.2 | 日中のがん治療における伝統薬の役割—最近の進歩      |
|        | Vol.37 No.3 | 日中における高齢者歯科診療の現状と展望          |
|        | Vol.37 No.4 | 日中における予防医学の現状と課題             |
| 2021年度 | Vol.36 No.1 | 日中における新型コロナウイルス感染症の現状と対策     |
|        | Vol.36 No.2 | 日中における医薬品開発と臨床試験             |
|        | Vol.36 No.3 | 日中における臓器移植の現状                |
|        | Vol.36 No.4 | 日中における乳癌治療の最前線               |
| 2020年度 | Vol.35 No.1 | 日中における免疫抑制薬物療法の現状            |
|        | Vol.35 No.2 | 増加する日中における呼吸器疾患の研究と臨床 Update |
|        | Vol.35 No.3 | 日中におけるがんの告知〜がんゲノム医療時代を迎えて    |
|        | Vol.35 No.4 | 日中における消化器癌治療の最前線             |
| 2019年度 | Vol.34 No.1 | 日中の小児歯科における咬合誘導の現状           |
|        | Vol.34 No.2 | 学術シンポジウム《日中医学交流会議2019東京》     |
|        | Vol.34 No.3 | 日中における医療制度の現状と課題             |
|        | Vol.34 No.4 | 日中における高齢者認知症の医療と介護           |

# ≫ 維持会員へのご入会並びに寄附のお願い

## 維持会員ご入会について

当協会では、当協会の趣旨にご賛同くださる方（法人を含む）に維持会員としてご加入いただいております。

### 会員構成

個人会員 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、研究員等の医療関係者、及び当協会の趣旨に賛同された方

法人会員 製薬メーカー、医療機器メーカー、医療コンサルティング会社、大学法人、病院、出版社、メディア等

### 入会申込方法

当協会ホームページ (<https://www.jpccnma.or.jp/>) からオンラインでお申込みいただけます。

FAX でのお申込みをご希望の方には、入会申込書をお送りいたします。

申込書到着後、振込用紙等の書類をお送りいたします。

## 協会へのご寄附について

当協会の事業活動は、維持会員の方々からの貴重な会費、並びに寄附金によって支えられております。公益事業の充実を図り、日中医学交流をさらに発展させていくために、皆様からの温かいご支援をお願いいたします。皆様からの寄附金は、当協会の「寄附金取扱規程」に則り、有効に活用させていただきます。

### 寄附の種類

寄附金の種類は、3種類あります。いずれも当協会「寄附金取扱規程」における名称です。

- ①一般寄附：個人または団体から使途の特定がなされないで受領する寄附金
- ②特定寄附：広く一般社会に、協会が使途を特定して一定期間募金活動を行うことにより受領する寄附金
- ③特別寄附：上記2種類の寄附金以外に、個人または団体から使途の特定がなされて受領する寄附金

### 寄附申込方法

当協会に電話、FAX、E-Mailのいずれかでご連絡ください。寄附申込書をお送りいたします。

## 寄附金（会費を含む）の税法上の取扱いについて

当協会は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当協会への寄附金（会費を含む）には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、個人の方は所得税、法人は法人税の控除が受けられます。

# » 日中医学協会役員名簿

## 会長 (代表理事)

小川 秀興 学校法人順天堂理事長

## 理事長 (代表理事)

跡見 裕 学校法人跡見学園理事長

## 副会長

安達 勇 静岡県立静岡がんセンター参与  
岩月 進 公益社団法人日本薬剤師会会長  
住友 雅人 日本歯科医学会会長  
高橋 英登 公益社団法人日本歯科医師会会長  
松本 吉郎 公益社団法人日本医師会会長

## 評議員

一戸 達也 東京歯科大学学長  
稲垣 暢也 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院理事長  
今村 英仁 公益社団法人日本医師会常任理事  
上坂 克彦 静岡県立静岡がんセンター総長  
大友 克之 朝日大学学長  
緒方 剛 茨城県潮来保健所長  
緒方 晴彦 藤田医科大学東京 先端医療研究センター消化器内科学教授  
小林 百代 公益社団法人日本薬剤師会理事  
未瀬 一彦 公益社団法人日本歯科医師会常務理事  
杉山 清 星薬科大学学長補佐  
高木 俊明 テルモ株式会社代表取締役会長  
高橋 和久 順天堂大学医学研究科長・医学部長  
高松 研 東邦大学名誉学長  
田平 武 順天堂大学大学院客員教授  
寺本 明 湘南医療大学副学長  
根本 則道 日本大学名誉教授  
松本 謙一 サクラグローバルホールディング株式会社代表取締役会長  
山田 陽城 一般財団法人北里環境科学センター理事長

## 業務執行理事

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 新井 一  | 順天堂大学理事長補佐                    |
| 尾身 茂  | 公益財団法人結核予防会理事長                |
| 春日 雅人 | 公益財団法人朝日生命成人病研究所所長            |
| 日比 紀文 | 北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター特別顧問 |

## 理事

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 安達 勇  | 静岡県立静岡がんセンター参与          |
| 角田 徹  | 公益社団法人日本医師会副会長          |
| 加藤 照和 | 株式会社ツムラ代表取締役社長 CEO      |
| 國土 典宏 | 国立研究開発法人国立国際医療研究センター理事長 |
| 高折 晃史 | 京都大学医学部附属病院院長           |
| 手代木 功 | 塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO |
| 永田 良一 | 株式会社新日本科学代表取締役会長兼社長 CEO |
| 林崎 良英 | 株式会社ダナフォーム代表取締役         |
| 眞鍋 淳  | 第一三共株式会社代表取締役会長兼 CEO    |
| 宮島 俊彦 | 日本製薬団体連合会理事長            |
| 山下 俊一 | 福島県立医科大学理事長特別補佐・副学長     |

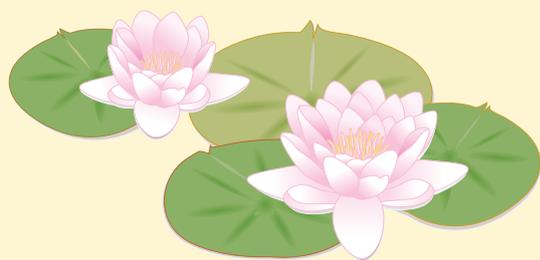
## 監事

|       |           |
|-------|-----------|
| 金井 正義 | 公認会計士     |
| 三宅 養三 | 名古屋大学名誉教授 |

## 顧問

|       |                  |
|-------|------------------|
| 前田 佳子 | 公益社団法人日本女医会会長    |
| 趙 群   | 笹川医学奨学金進修生同学会理事長 |

(五十音順)



公益財団法人 **日中医学協会**

The Japan China Medical Association

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-4-3 住泉 KM ビル 6階

電話：03-5829-9123 FAX：03-3866-9080

E-Mail：iryō@jpcnma.or.jp

URL：https://www.jpcnma.or.jp

